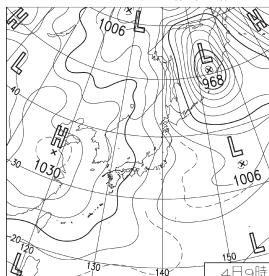


# 日々の天気図

— No. 110

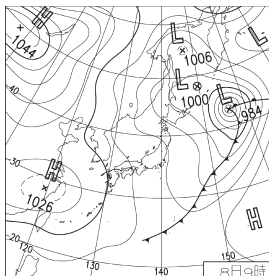
2011年3月

- ・11日、三陸沖を震源とするM9.0の巨大地震が発生。宮城県栗原市で震度7を観測。
- ・20日、全国に先駆けて、静岡でソメイヨシノ開花。
- ・シベリア高気圧の勢力が強く、冬の気圧配置となる日が多かった。  
(気象庁予報部予報課)



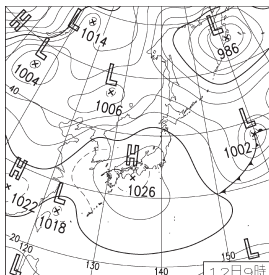
## 4日(金) 冬の気圧配置続く

西～北日本の日本海側では雪。南西諸島や伊豆諸島では曇りや雨。その他は概ね晴れ。気温は最高気温、最低気温共に全国的に低く、北海道の北部と東部を除いてほぼ1月下旬並。



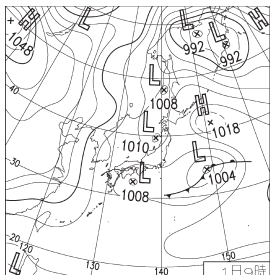
## 8日(火) 冬型緩む

低気圧が北海道東海上に去り、冬型一時緩む。山陰～北海道の日本海側で降っていた雪・雨も次第に止み、晴れ間も。日中晴れた太平洋側でも、気温は軒並み平年を下回る。



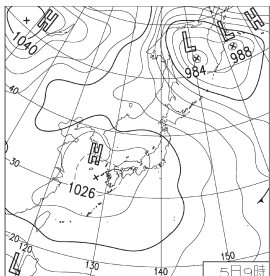
## 12日(土) 大津波警報 継続

高気圧に覆われ広い範囲で晴れ。西日本の朝は冷え込んだが、東北の朝の最低気温は平年並。昨日の地震の余震が頻発。太平洋側で大津波警報、津波警報継続。



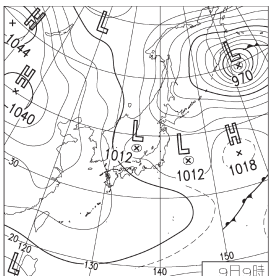
## 1日(火) 広範囲に雨や雪

低気圧が本州の南岸を東進したため九州～東北にかけて雨や雪が広範囲に広がる。北海道は日本海の低気圧の影響で雪。関東は日中の気温が上がらず厳しい冷え込み。



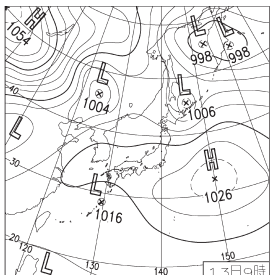
## 5日(土) 日中は暖かさ戻る

西～東日本は高気圧に覆われ晴れ。西日本の朝は前日以上の冷え込み。大分県竹田市の最低気温は平年より8.4℃低い-7.2℃。最高気温は全国で平年並に。大阪市でタンポポ開花。



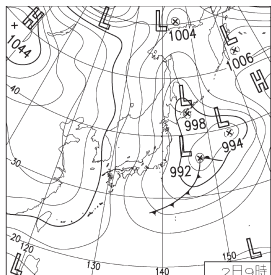
## 9日(水) 宮城県で震度5弱

三陸沖でM7.3。東北太平洋側で津波、岩手県大船渡市で60cm等。日本海の低気圧の影響で北陸各地に強い風。最大瞬間風速は新潟県長岡市寺泊31.5m/s、金沢28.4m/s。



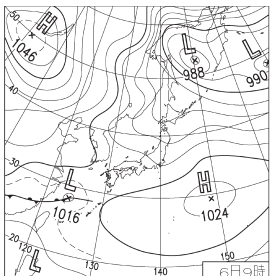
## 13日(日) 東北関東余震続く

岩手県から千葉県沖の各地で余震続く。高気圧が西に勢力を残し日本付近は引き続き広い範囲で穏やかに晴れ、各地で気温上昇。



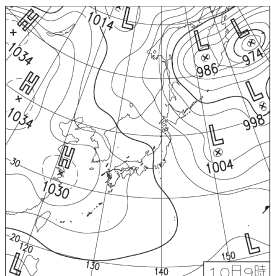
## 2日(水) 冬の気圧配置に

冬の気圧配置となり、西日本～北日本の日本海側で雪。本州南岸は気圧の谷が残り、関東は曇り一部で雨。寒気が入った南西諸島は最高気温が軒並み真冬並。



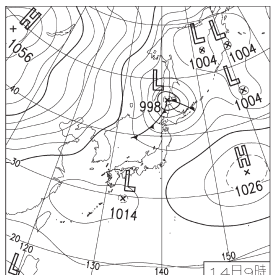
## 6日(日) 西日本は寒い「啓蟄」

低気圧の影響を受けて西日本は雨。東日本は高気圧に覆われ晴れ。東北の日本海側は気圧の谷の影響で雨や雪。西日本の最高気温は平年より低く、九州では厳しい冷え込みの所も。



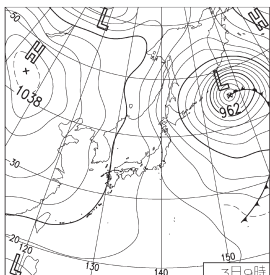
## 10日(木) 真冬並の寒気

冬の気圧配置となり、強い寒気流入。釧路の上空約5000mで-44.7℃。本州付近中心に、最高・最低気温ともに2月並の寒さ。山形県庄内町狩川で日降雪量33cm。



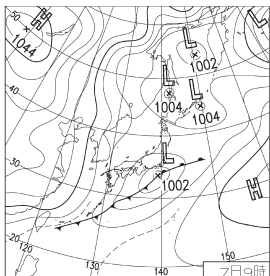
## 14日(月) 全国的に4月並の気温

九州と北海道で雨または曇りの他は晴れや曇り。日本付近には暖かい空気が流入したため最高気温は全国的に4月並で、一部では平年比10℃以上の所も。



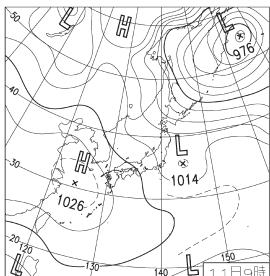
## 3日(木) 上空に寒気入る

冬の気圧配置が続き、日本海側だけでなく、九州、四国、関東南部でも雪や雨。上空に寒気をもった気圧の谷の影響で、札幌で日降雪量31cm。新千歳空港発着の82便が欠航。



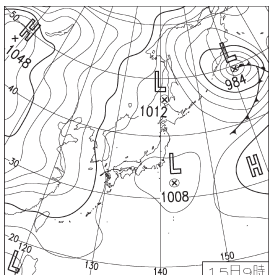
## 7日(月) 南岸低気圧で大雪

本州の南岸を低気圧が東進。山梨県河口湖で日降雪量31cmなど関東甲信の山沿いで大雪。雪が降った日中、気温は下がり真冬並の寒さに。東京は今季2度目の積雪。



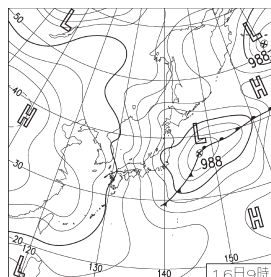
## 11日(金) 宮城県で震度7

三陸沖でM9.0の「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」が発生し大津波警報発表。東北～関東で甚大な被害。冬の気圧配置が続き日本海側は雪や雨。



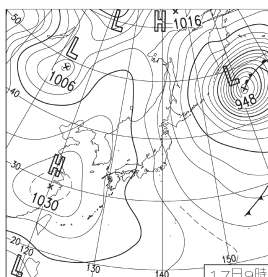
## 15日(火) 再び近づく寒気

晴れた西日本は前日の暖かさが残るが北から徐々に寒気が流入し、北陸・関東～北日本は気温が上がらず、最高気温の前日差-6～-10℃。東北太平洋側の地震・津波被災地にも夜には雪。



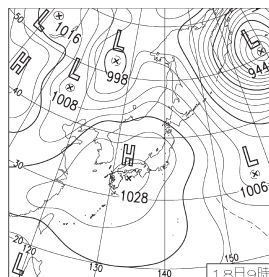
### 16日(水)冬型で強い季節風

強い冬型の気圧配置となり全国的に西～北風が強まる。山陰～北陸や東北は雪。東北の最高気温は1月下旬～2月中旬並。最大瞬間風速は東京都三宅島と神津島で27.8 m/s。



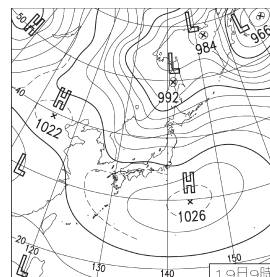
### 17日(木)被災地に無情の雪

千島の東で低気圧が猛烈に発達。冬型の気圧配置が継続し、北～北西の冷たい季節風が吹きつけ全国的に厳しい冷え込み。山陰～北海道の広い範囲で雪。



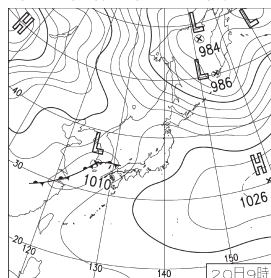
### 18日(金)移動性高気圧通過

東北の日本海側や北海道の一部で雪や雨だが、冬型は緩んで高気圧に覆われ全国的に晴れ間が広がる。朝は全国的に強い冷え込みで、最低気温が軒並み平年以下。



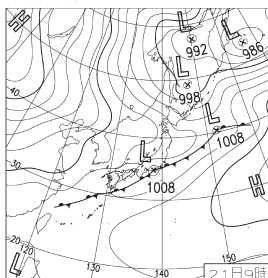
### 19日(土)中国、北陸で春一番

本州や四国は高気圧に覆われ概ね晴れ。北日本の日本海側では一時雪や雨。その他は曇り。最高気温は全国的に高く4月上旬～中旬並。



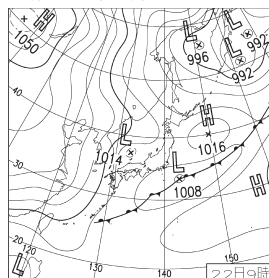
### 20日(日)静岡で桜開花の便り

前線と低気圧が西から接近し、九州で朝降り出した雨は、夕方には西日本一帯、夜には北陸・東海まで広がる。気温は全国的に高く、静岡市で全国一早いソメイヨシノ開花。



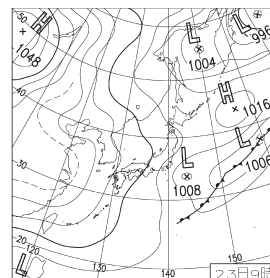
### 21日(月)九州～東北で雨

前線を低気圧が通過した影響で九州～東北南部で広く雨。午後は東北北部の太平洋側でも雨。最低気温は全国的に平年より高く西日本では5月並の所も。熊本市でサクラ開花。



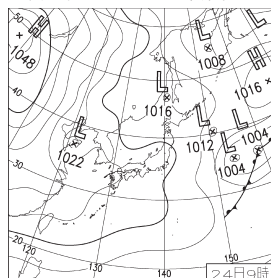
### 22日(火)関東は冷たい雨

低気圧が本州南岸を通過した影響で関東南部を中心に弱い雨。冷たい空気が引きこまれ日中も気温は上がらず。その他の地域は平年並。佐賀市、福岡市、高知市でサクラ開花。



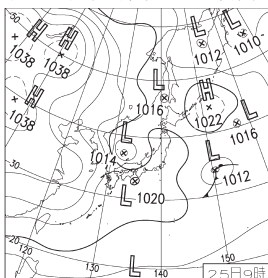
### 23日(水)寒さに負けずサクラ

2月中旬並みの寒気が流入し、気温は全国的に平年より低く、東北～北海道は雪、北陸～関東は冷たい雨。それでも、鹿児島、宮崎など九州各地からサクラ開花の便り。



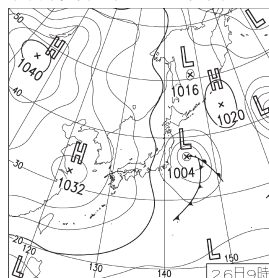
### 24日(木)雨上がりの朝

今朝、関東南部を中心に黄色い粉の目撃情報多数。昨夜の雨に花粉が混じったため。午後、北日本を気圧の谷が通過し一時雪や雨。その他は曇りや晴れ。



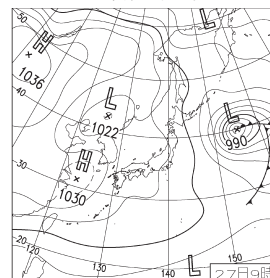
### 25日(金)春の歩み遅く

寒気を伴った低気圧が接近、西～東日本の日本海側で雨や雪。紀伊半島沖にも低気圧発生。太平洋側も雲が広がり所々で雨や雪。九州～中国は最高気温が2月並。



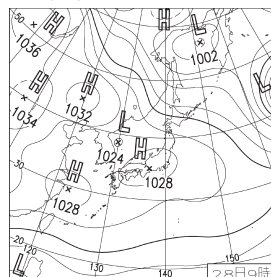
### 26日(土)低気圧急速に発達

低気圧が急速に発達し、日本海側では雪や雨が続く。東北は太平洋側も雪。東海～東北では季節風が強まる。東北の最低気温は平年並。新潟県妙高市関山で日降雪量42 cm。



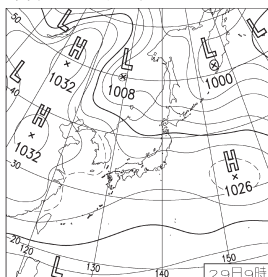
### 27日(日)西から高気圧圏内に

高気圧が東シナ海から張り出し、冬型の気圧配置緩み始める。放射冷却のため朝は西日本を中心に厳しい冷え込み。和歌山市、名古屋市でサクラ開花。



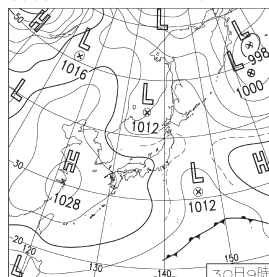
### 28日(月)晴れたが気温は低め

2つの移動性高気圧が日本付近を覆い、沖縄と東北日本海側を除き全国的によく晴れた。冷たい空気が残り気温は平年より低め。京都・岐阜・東京でサクラ開花。



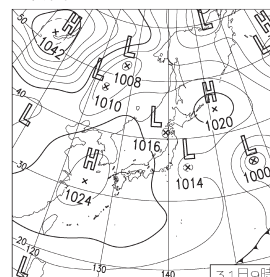
### 29日(火)気温やっと向上

日本付近は帯状の高気圧に覆われ概ね晴れ。午後西日本を中心に所々でにわか雨。最高気温は全国的に平年並～4月中旬並。各地からツバメ等、生物季節観測の報告多数届く。



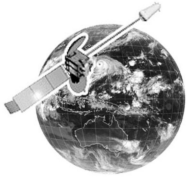
### 30日(水)変わりやすい天気

ほぼ全国的に晴れていたが、寒気を伴った気圧の谷の影響で昼頃から大気の状態が不安定。北陸～関東・東北は、所々でにわか雨や雷雨。山口県下関市・横浜市でサクラ開花。



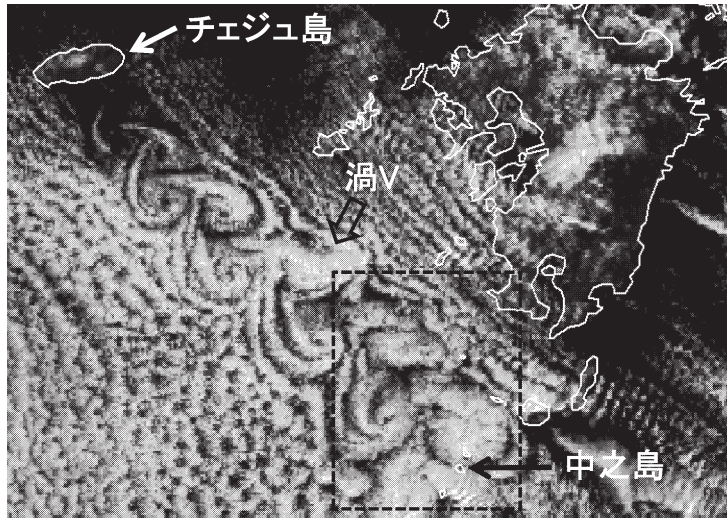
### 31日(木)関東から北、にわか雨

動きの遅い移動性高気圧が日本付近を広く覆いよく晴れ。沖縄や九州で最高気温20℃を越す。上空寒気の影響で、午後は関東から北で不安定となり所により雨。

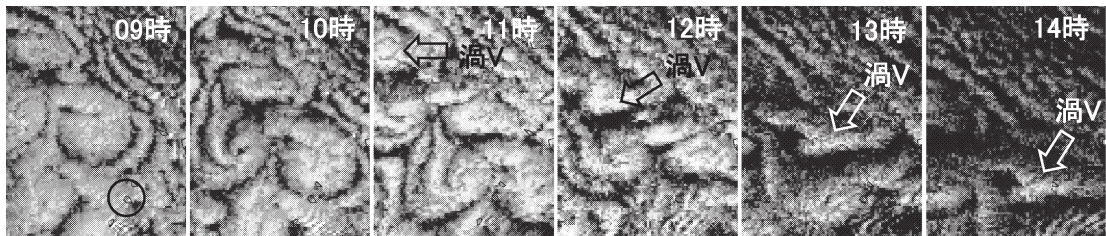


## 今月のひまわり画像—2011年3月

### カルマン渦の通過する島



第1図 2011年3月2日10時（日本時間）の九州の西海上の可視画像（記号については本文参照）。



第2図 第1図の点線内の領域における2日09時～14時の1時間毎の可視画像（左端の図の○印の中心は中之島を示す）。

第1図は2011年3月2日10時（日本時間）の九州の西海上の可視画像である。同日09時の高層観測ではチェジュ島上空の高度1200～1500 m付近に顕著な逆転層が形成されており、同島のハラ山（標高1950 m）の南東海上には風下に向かって流されていく明瞭なカルマン渦が見られる。第2図にトカラ列島の北部に位置する中之島付近の可視画像を示したが、この事例のように同島付近はチェジュ島の風下で発生したカルマン渦の通り道にあたることが多い。同日、中之島付近を通過したカルマン渦はこの寒候期（2010年10月～2011年3月）で最も明瞭なもので、09時から14時頃にかけて同島付近を時計回り、反時計回りの渦が交互に南下した。

中之島のアメダス観測所は島の南西部にあり、島のほぼ中央にあるトカラ富士と呼ばれる御岳（標高979 m）の地形の影響を受けるため、カルマン渦の通過に伴う風向、風速の規則正しい周期的変化は捕捉し難い。しかし、アメダスで観測された1分値の時系列変化図（略）を見ると、西北西の風の一般場の中、カルマン渦の通過に伴う風向、風速の変化がみられ、上の図に示した時計回りの渦Vが円形を崩しながらも同島の西岸付近を通過した13時34分には北西の風16.1 m/sの同日の最大瞬間風速が観測された。また、各カルマン渦の通過時には、日照が途切れ、気温はやや遅れて下降していた。

（福岡管区気象台技術部予報課 木下 仁）